

第3節

児童生徒の確かな学びをつなぐ授業実践

1 「佐大附特システム」に基づいた授業研究

本節では、理論研究を踏まえながら同時に進めてきた授業研究について述べていきたい。

今期研究では、学部ごとに年1回計2回の授業研究に取り組んだ。授業研究に当たっては、「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業改善に加え、「年間指導計画」に基づいた単元設定や計画の視点、「学習内容表」に示した育成をめざす資質・能力の視点から、学部ごとに検討を深めながら授業研究を進めた。

(1) 1年次の取組

1年次は、「学習内容表」の作成・活用の取組に関連し、知的障害の各教科等の内容を明確化することをねらって、各学部とも国語科で授業研究を行うこととし、実態把握、単元計画と目標設定、実践と評価、今後への展望という授業改善のサイクルで取り組んだ。1年次の授業研究の段階では、カリキュラム・マネジメントに係る各計画の様式の見直しも同時進行で取り組んでいたため、前様式を使用した授業研究を行った。

なお、1年次の研究授業対象の児童生徒をAから0で示す。

授業研究後には、「児童生徒が確かな学びをつなぐ」ために教師が意識すべきことについて検討し図として表す取り組みを行った。

ア 小学部の取組

本校小学部では、国語と算数については、時間における指導と各教科等を合わせた指導における指導の2つの指導形態で取り扱っている。また、カリキュラム・マネジメントのフローに沿って作成した年間指導計画をもとに、新年度になってから新担任で児童の実態把握と年間指導計画の見直しを行いながら、日々の実践に取り組んでいる。

これまで国語の授業の形態は、主に教師と児童の1対1の個別学習の形式をとってきた。今回の対象学級である5・6年学級（C組）は、6年生1名、5年生3名で構成されているが、個別学習の形式で、これまで平仮名、曜日の漢字、なぞり書き、音読、文字カード、日記などの活動に取り組んできた。

授業研究に当たっては、まず、本校で作成した国語科の「学習内容表」を用いて、児童の国語科の実態について精査した。まだ「学びの履歴」としては完成していなかったが、試行的にその機能を生かし、「学習内容表」の中で4人の対象児童が習得できている内容と、取り組んでいるが習得の途中である内容を確認し、一人ひとりに身に付けたい力を明確にした〔図-44〕。

そこで、4人に身に付けてほしい力を、以下のとおり整理した。

【聞くこと・話すこと】

- 伝えたいことを思い浮かべ身振りや音声などで表すこと(小学部1段階 以下小1段階と示す)

- 体験したことなどについて伝えたいことを考えること(小2段階)
 - 見聞きしたことのあらましや自分の気持ちなどについて思い付いたり、考えたりすること(小3段階)
 - 姿勢や口形に気をつけて話すこと(小3段階)
 - 挨拶をしたり、簡単な台詞などを表現したりすること(小2段階) ※4人共通
 - 相手に伝わるよう、発声や声の大きさに気をつけること(小3段階) ※4人共通
- 【書くこと】
- 身近な人との関わりや出来事について、伝えたいことを思い浮かべたり、選んだりすること (小1段階)
 - 経験したことのうち身近なことについて、写真などを手掛かりにして、伝えたいことを思い浮かべたり、選んだりすること(小2段階)
- 【言葉の特徴や使い方に関する事項】
- 日常生活でよく使われている平仮名を読むこと(小2段階)

〈国語〉科 小学部			
項目	位	小学部1段階	小学部2段階
思考力・判断力・表現力	A	身近な人の話し掛けに慣れ、言葉が事物の内容を表していることを感じる。アー(ア)	身近な人の話し掛けや会話などの話し言葉に慣れ、言葉が、気持ちや要求を表していることを感じる。アー(ア)
	聞くこと・話すこと	○身近な大人や兄弟、友達からの話し掛けに耳を傾け、人との関わりの中で言葉が用いられていることに注意を向けること。 ○やり取りを繰り返す中で言葉と事物とが徐々に一致してきたり、自分なりの表現を繰り返す中で要求が相手に伝わり、心遣いを感じる。たりすること。	○人の話し言葉、テレビやラジオなどの媒体を通した音声に聞き慣れること。 ○言葉を用いることで、自分が感じた気持ちや要求などが相手に伝わることを感じる。
		言葉のもつ音やリズムに触れたり、言葉が表す事物やイメージに触れたりすること。アー(イ)	日常生活でよく使われている平仮名を読むこと。アー(イ)
		○様々な言葉を聞いたり、音声の高さや	筋筋を伸ばし、声を十分出しながら落ち着いた気持ちで話すことや、正しい発音のために、唇や舌などを適切に使うこと。アー(イ)
項目		【知識・技能】	
下位項目		言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身に付けることができるように指導する。	

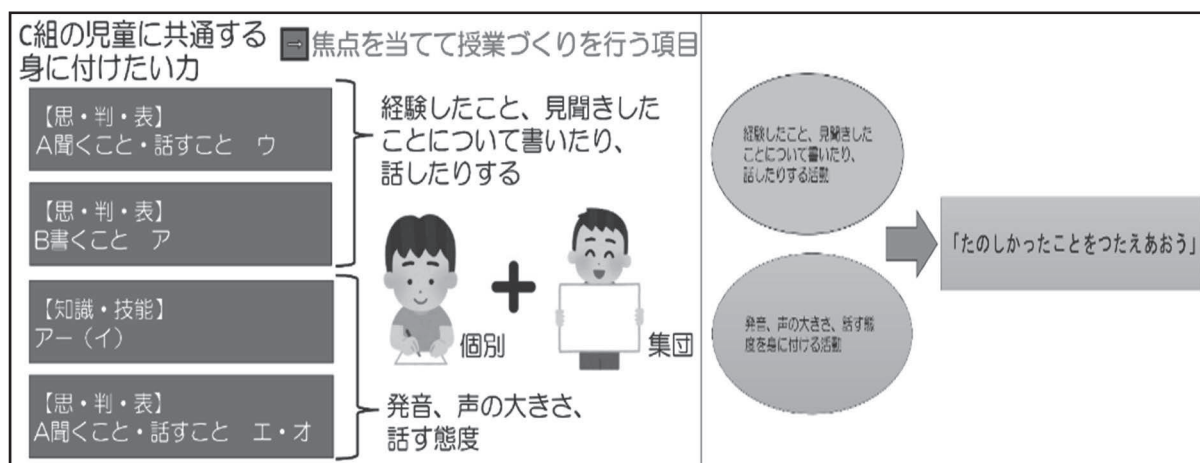
〈国語〉科 小学部			
項目	位	小学部1段階	小学部2段階
思考力・判断力・表現力	A	家族や友達など身近な人から話し掛けられた状況を受け止め、関心をもって話し手を見たり、返事をしたり、簡単な台詞で表現したりすること。アーイ	簡単な指示や説明を聞き、その指示がわかること。アーイ
	聞くこと・話すこと	○「荷物を出してから、カバンをしまおう。」など、3語から4語で構成する文による指示や説明のこと。	見聞きしたことを思い浮かべ、自分の知っている言葉に当てはめよう。アーイ
		話について、手掛かりを用いて思い浮かべ、指さして伝えたり話したり表情や身振り、音声で、模倣したり応答したりすること。アーク	見聞きしたことを思い浮かべ、自分の知っている言葉に当てはめよう。アーク
			挨拶などの日常生活
項目		【思考力・判断力・表現力】	
下位項目		A 聞くこと・話すこと	

〔図-44 国語の学習内容表(抜粋)〕

このうち「聞くこと・話すこと」は、これまでの個別の学習の形態では、なかなか取り扱ってこなかった領域である。

そこで今回は、個別の学習に加え、友達と関わり合う活動も取り入れて「聞くこと・話すこと」の学習や、児童一人ひとりが「言葉の特徴や使い方に関する事項」や

「書くこと」の学習に取り組めるような単元を設定しようと考えた。内容としては、これまでの生活単元学習などで経験したことの中から楽しかったことを思い出して原稿を作成し、友達に伝え合うという単元を計画することとした【図-45】。単元設定に際しては、時期的に近い学習発表会でも同様に一人ひとりが保護者に向けて発表する内容とすることで、児童の意欲を高めるとともに、単元間のつながりや、各教科等を合わせた指導との関連づけを図ることとした。



【図-45 単元の構想】

小学部では、ほぼ初めて国語科の授業で集団での活動を取り入れるので、学部では、集団学習と個別学習とを比較し、整理した【表-20】。

【表-20 集団での授業に係る意見の整理】

集団学習の良さ	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたち同士の対話や関わりが生まれる。 ・ダイナミックな活動ができる。 ・みんなの前で活動することで、達成感をもつことができる。 ・友達の気づきから学ぶことができる。 ・友達の反応を見て、自分の活動を振り返ることができる。 ・友達のやり方などをモデルとして課題に取り組むことができる。 ・友達のことをさらに知ることができ、仲間意識を育てることができる。 ・興味や関心を広げることができる。 ・ルールや約束を学ぶ場にもなる。 ・主体的、対話的で深い学びのうち、特に対話的な学びを充実させることができる。
個別学習の必要性	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの実態に応じた手立てが必要なので、「書くこと」は個別での学習の方が適している。 ・繰り返し取り組み定着を図るための学習などは、個別に取り組んだ方がよい。

また、学部間の接続の視点から、小学部の国語・算数は個別で学習しているが、中学部や高等部では、実態別の縦割りグループで行われているため、間もなく中学生になる児童も在籍している本学級において、中学部進学も視野に入れながら、主体的・対話的で深い学びが期待できる集団学習に取り組むことは意義があると考えた。

以上のような学部での検討を経て、次に単元計画の検討に移った。単元の個人目標を設定する際は、もう一度「学習内容表」を見ながら、その単元の学習の中で児童がどのようなことができるようになれば、資質・能力が育成されていると判断できるのか、具体的な姿を想定しながら目標を設定するようにした。

なお、児童が見通しをもって活動できるように、単元中は同じ授業展開とした【図-46】。

国語科 学習指導案（抜粋）

1. 単元名「たのしかったことをつたえあおう」

2. 単元の目標

○経験したことについて、絵や写真などを手掛かりに、楽しかったことを思い浮かべたり選んだりして、表現することができる。

○相手に伝わるように、話し方や声の大きさに気をつけて楽しかったことを紹介することができる。

○相手を見て、話を聞くことができる。

3. 単元の計画（全5時間 本時4/5）

次	時	日時	学習活動	指導内容
1	1	10/30	<ul style="list-style-type: none"> 顔の体操をする。 学習の流れを確かめる。 どんな話し方や聞き方がよいかを、電子黒板で、高等部生徒の話し方を見て話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手に伝わるように、話し方や声の大きさに気をつけて紹介することができる。 相手を見て、話を聞くことができる。
2	2 4, 5 5	11/1, 4, 5, 6(本時)	<ul style="list-style-type: none"> 顔の体操をする。 学習の流れを確かめる。 思い出アルバムから、楽しかったことを選んで、課題に沿って文章を書く（個別）。 相手に伝わる話し方や、聞き方に気をつけて、紹介し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 体験したことなどについて、絵や言葉などを手掛かりにして、伝えたいことを思い浮かべたり、選んだりすることができる。 相手に伝わるように、話し方や声の大きさに気をつけて紹介することができる。 相手を見て、話を聞くことができる。

4. 単元の個人目標

	実態	個人目標
A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 写真を手掛かりに、したことを思い浮かべて言葉で表現することができる。 ・ 教師と会話をする中で、自分の気持ちを言葉で表現することができるようになってきた。 	① 一番心に残った活動について、写真を手掛かりに教師と会話することで、その時に感じたことを思い浮かべて文章を書くことができる。(小2段階)
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教師の言葉かけで、人前でゆっくり話すことができる。 	② 相手に伝わるようにゆっくり間をあけた話し方を意識して、紹介することができる。(小3段階)
B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 帰りの会での1日の振り返りで、楽しかったことを2枚の写真から選ぶことができる。 	① 思い出アルバムの中から、写真などを手掛かりに心に残ったことを思い浮かべ、選ぶことができる。(小1段階)
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「気をつけ」の合図で、前を向くことができるようになってきた。 	② 教師の促しを受けて、紹介している人を見て話を聞くことができる。(小1段階)
C	<ul style="list-style-type: none"> ・ 写真を手掛かりに、楽しかったことを選び、その時の気持ちを簡単な言葉で表現することができる。 ・ 手本があれば、安心して平仮名を書くことができる。 	① 写真を手掛かりに、楽しかったことを選び、その時の気持ちを文にすることができる。(小2段階)
	<ul style="list-style-type: none"> ・ その時の気持ちによって、声が大きくなったり小さくなったりすることがある。 	② 相手に伝わるように、声の大きさを意識して紹介することができる。(小3段階)
D	<ul style="list-style-type: none"> ・ 帰りの会での1日の振り返りで、教師の促しを受けて楽しかったことを2枚の写真から選ぶことができる。 	① 思い出アルバムの中から、写真などを手掛かりに楽しかったことを思い浮かべ、指差しで選ぶことができる。(小1段階)
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教師の促しを受けて、顔をあげて話をしている人を見ることができるようになってきた。 	② 教師の促しを受けて、紹介している人を見て話を聞くことができる。(小1段階)

〔図-46 「たのしかったことをつたえあおう」指導案(抜粋)〕

授業の展開〔表-21〕については、学習活動の4と5を授業の中心に位置付けた。

4の「個別で課題に沿った文章を書く」では、これまでの生活単元学習等での活動の様子の写真をまとめた「思い出アルバム」から心に残った活動を選び、紹介カード作りに取り組んだ。児童の実態に応じた手立てとして、教師が児童との会話を通して、その時の様子や気持ちを表す言葉を引き出し文章表現できるよう支援した。

5の「書いた文章を紹介し合う」活動では、伝わるように意識し、紹介する人を見ることができるよう、はじめに「話し方・聞き方」のポイントを確認してから、みんなの前で発表を行った。

〔表－21 授業の展開〕

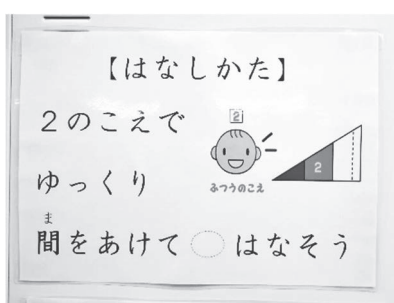
学習活動	活動の詳細
1 はじめのあいさつ	
2 顔の体操	・顔のマッサージ ・「あ・い・う・え・お」の口の開け方体操
3 今日の学習について知る。	・思い出アルバムの中から心に残った活動を選んで、課題に沿って文章を書くこと、紹介し合うことを知る。
4 個別で課題に沿った文章を書く。	・思い出アルバムの写真を手掛かりに、心に残った活動を選び、伝えたいことを表現する。 ・話し方のポイントを確認し紹介の練習をしたり、紹介する人を見る練習をしたりする。
5 書いた文章を紹介し合う。	・「話し方・聞き方」のポイントを確認し、意識して紹介したり、紹介する人を見たりする。
6 活動の振り返り	・紹介の仕方や、聞き方を称賛し、次時の活動への意欲につなげる。
7 おわりのあいさつ	

次に、児童がそれぞれの個人目標を達成するための手立てを検討した。

「聞くこと・話すこと」については、児童の緊張をほぐし、発声しやすい雰囲気作りのため、「顔の体操・発声練習」を授業の最初に行った〔図－47〕。また、発表の活動に入る前には、「2のこえ」「ゆっくり間をあけて」などのイラスト等を提示しながら確認するようにした〔図－48〕。さらに、話し方の具体的なイメージができるよう、高等部の生徒会長が話す様子の動画を見て、実際に間をあけてゆっくり話す姿を確認した〔図－49〕。活動の際の「聞くこと」のポイントとして「おめめビーム」と「きをつけ」の2つのキーワードを合い言葉にし、意識化を図った。



〔図－47 顔の体操・発声練習〕



〔図－48 話し方のポイント〕



〔図－49 生徒会長の話し方の動画〕

授業の実施、個人目標の評価については、C児を対象として抽出し、分析を行った。

個人目標は、「写真を手掛かりに、楽しかったことを選び、その時の気持ちを文にすることができる。(小2段階)」だったが、写真の様子を教師に話をしながら、その時の気持ちを思い出し、なぜ楽しかったのか理由もつけて伝えて、教師と一緒に文章にすることができるようになった。「相手に伝わるように、声の大きさを意識して紹介することができる。(小3段階)」については、自ら何度も読む練習に取り組む姿が見られ、みんなの前でも声の大きさや、ゆっくり話すことを意識して紹介することができるようになった。

以上のように、C児は単元の個人目標を達成することができたと評価した。また、他の児童も概ね個人目標を達成することができた。A児は個人目標「相手に伝わるように、ゆっくりと間をあけた話し方を意識して、紹介することができる。(小3段階)」については、まだ未達成であったが、授業ごとに上達が見られた。今後も関連づけた学習を計画し、経験を積むことが必要だと考えた。

次に、「主体的・対話的・深い学び」の授業改善の観点から、学部で意見を出し合った〔表-22〕。

〔表-22 「主体的・対話的・深い学び」の観点での授業の評価〕

<p>主体的 児童が主体的に学ぶための工夫</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「学習発表会」や「友達に紹介する」という目的意識をもつことで、「お母さんに喜んでもらいたい。」とつぶやいたり、自ら繰り返し練習したりするなど、主体的に学ぶ姿が見られた。
<p>対話的 児童が他者とかわりながら学ぶための工夫</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・写真を手掛かりに、教師と会話をする中で楽しかったことを思い出した。C児のつぶやきを教師が繰り返したり、その時の様子を具体的に話したりすることで、その時の気持ちを思い出すことができた。 ・個別ではなく集団での学習にしたことで、友達みんなに楽しかったことを紹介する活動ができた。話をするときも聞くときも、相手がいることで、相手に伝わる話し方や、相手が話しやすい聞き方を学ぶことができた。
<p>深い学び 児童が考えたり試行錯誤したりしながら学ぶための工夫</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な先輩の話し方を繰り返し見ることで、話し方のポイントが「ゆっくり」「間をあけて」の言葉だけではなく、話し方の全体的なイメージとして少しずつ児童に浸透してきた。 ・自分の紹介の場面では、「もう1回」と自分からやり直す姿や、自分や友達の動画も繰り返し視聴する姿が見られた。身近な先輩との違いを自分なりに考えたり試行錯誤したりしていると捉えられた。

協議の中では、児童の主体的な姿を引き出すためには、児童が自分の取り組む活動に目的意識をもつような手立てをとることや、目指す姿と自分の今の姿の違いに気付くことができるようにすること、試行錯誤しながら練習できるように活動を仕組むことなどの重要性が分かった。さらに、集団で授業を行うことで、対話的な学びの姿を見ることができたことは、この取り組みの成果であることが確認できた。

最後に、こうした単元の学習の評価をもとに、今後の5・6年学級の学びや授業計画の在り方について検討した。5・6年学級の授業については、今後も伝え合う学習を継続的に取り入れ、一人ひとりがより豊かな表現ができるように支援したり、意欲的に発表ができるように、対話的な場面を増やしたりしていききたいと考えた。そこで、冬休みに楽しかったことを友達に紹介し合う単元を計画した。同じような単元で身に付いた資質・能力を生かす学習を繰り返すことで、相手に伝わる話し方や話の聞き方の定着を図っていききたい。さらに、友達の体験と自分の体験を、「同じ」や「違う」と比べることで、相手の表現にも関心が向けられるようにしていききたい。友達の発表のよさを伝え合うなどの指導することで、対話的な学びも深まっていくと思われる。

今回の学部別授業研究は、小学部の国語・算数の学習の在り方を見直す良い機会となった。指導計画に当たっては、「学習内容表」を活用して細やかな実態把握を行った上で、学ぶ領域に偏りがないように計画を作成していくことが重要である。どのように学ぶかについては、中学部へのつながりも意識して、領域や実態に応じて柔軟に指導体制を変えることについても検討したい。

小学部の授業研究の成果と課題は以下のようにまとめられた【表-23】。

【表-23 小学部授業研究の成果と課題】

【成果】

- ・「聞くこと・話すこと」の活動を集団で取り組んだことは、対教師だけではなく、児童同士の関わりが大切であることが再確認できたことに意義があった。学ぶ領域によって、適切な指導の形態や方法を選択するなど、小学部の国語・算数の授業の在り方を見直す良いきっかけになった。
- ・「学習内容表」を使用して目標設定を行ったので、一人ひとりが目指す姿を明確にして、一人ひとりに適切な個人目標を設定することができた。また、国語科の教科別の授業として取り組んだことで、ねらいをはっきりさせることができた。

【課題】

- ・国語科のねらいを明確した授業作りを行ったつもりだったが、一見すると生活単元学習のような授業になった。ねらいを達成するための手立てをさらに工夫し、教師間の共通理解を図る必要がある。

- ・育成を目指す資質・能力の3つの柱については、その単元の中で何をどこまでねらうのか、児童の実態から考慮するのが良いのではないだろうか。1つの単元で3つの柱全てをねらうのではなく、他の単元との関連の中では身に付けてはどうか。
- ・生活単元学習の単元ごとの振り返りで、「心に残った写真を選ぶ」「自分の気持ちを考えて書く」「紹介する」という時間を、単元ごとに設定できたら、国語科として研究授業のような単元を行う時に、その時の気持ちをより鮮明に思い出し、表現できるのではないか。時間における指導と各教科等を合わせた指導とのつながりをさらに工夫していきたい。

イ 中学部の取組

中学部の国語では、3学年を習熟度別に3つの縦割りグループ（Aグループ、Bグループ、Cグループ）で授業を行っている。それぞれのグループで、生徒の実態に合わせて、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」「聞くこと・話すこと」「書くこと」「読むこと」の項目を、年間を通して計画し、授業を実施している。このうち、本授業研究対象のBグループには1年生3名と3年生2名が在籍している。

今回の授業研究では、Bグループの「聞くこと・話すこと」の学習を取り上げることとした。Bグループでは「聞くこと・話すこと」の学習として、5月に「すごろくで自己紹介をしよう」の単元に取り組んだ。その中で相手に伝わりやすいように「ゆっくり話すこと」「適切な声の大きさ」「正しい姿勢」に気をつけながら話す学習を行った。

そこで、5月の単元で学んだことの定着や、実際に生徒が日常生活の中で生かすことのできる「聞く力・話す力」の育成をねらい、「電話で話そう」の単元に取り組むこととした。電話は将来の生徒の生活に必要なものになると思われるが、Bグループの生徒はその学習の経験がなかった。生徒が、今と将来の生活の中で、学習したことを生かし、電話を使って他者とコミュニケーションを取ることができるよう、つなげていきたいと考えた。

この単元では、「学習内容表」の「挨拶や電話の受け答えなど、決まった言い方を使うこと。（小3段階）」「電話を通して目前にいない相手に対して話す際に、丁寧な言葉を使うなど、話す相手や場面や目的等に応じた言葉遣いを考えて話すこと。（中1段階）」を主に取り扱うこととした。

Bグループの生徒は、「すごろくで自己紹介をしよう」の単元以外でも、教師の質問に答えたり、教師と一緒に発声したりするなど、対面で話す学習にはこれまで多く取り組んできた。その中で、伝えたいことを事前にワークシートに書き、それを

読むことで自分の考えを発表するという一連の活動に意欲的に取り組むことができた。グループには、発声して発表することが難しい生徒が1名いるが、画用紙に自分の考えを書き、教師の質問に答えるタイミングでみんなに提示するという方法で意欲的に参加することができた。また、友達の発表のときは、その友達に注目し拍手をするなど、それぞれの良さを認め合いながら学習ができるグループである。相手に伝わりやすいように工夫して話すことについては、引き続き取り組みの定着を図る必要がある。

単元の計画を進めるにあたっては、1次目に電話の種類と電話の話し方について知る授業を設定した。2次は、3次で実際に電話で話すための準備として、場面ごとのワークシート作りに取り組んだ。場面設定は、①スーパーの場面、②忘れ物の場面、③お迎えの場面の3つである。3次では、生徒が実際に話す練習に十分取り組めるよう、①から③の場面で、1つの場面につき3回ずつ授業を行った。実際に、携帯電話(通話はできない)を手に持って話したり、タブレット端末の通信機能を使って目前にいない相手との受け答えを行ったりする活動を設定した〔図-50〕。

中学部国語Bグループ 国語科 学習指導案(抜粋)

1. 単元名「電話で話そう」

2. 単元の目標

○電話で相手ができるように、工夫して伝えることができる。

3. 単元の計画(全14時間)

次	時	日時	学習活動	指導内容(学習内容表から)
1	3	10/7～ 10/9	電話での丁寧な話し方を知る。	・丁寧な言葉を使うこと。 ・電話の受け答えなど、決まった言い方を使うこと。
2	2	10/14 10/16	ワークシートにまとめる。 ①スーパーの場面 ②忘れ物の場面 ③お迎えの場面	・絵や写真などを手掛かりに、伝えたいことを検討すること。 ・話したいことを決めること。
3 ①	9	10/21 10/23 10/28	電話で話す練習をする① 1. ワークシートの確認、 練習 2. 電話を使った練習 3. 発表	・電話の受け答えなど、決まった言い方を使うこと。 ・電話を通して目前にいない相手に対し、丁寧な言葉を使うこと。

3 ②	11/4	電話で話す練習をする② 1. ワークシートの確認, 練習 2. 電話を使った練習 3. 発表	<ul style="list-style-type: none"> 相手の話を受け止めること。 発音や声の大きさに気を付けて話すこと。
	11/6		
11/11			
3 ③	11/13	電話で話す練習をする③ 1. ワークシートの確認, 練習 2. 電話を使った練習 3. 発表	
	11/18		
	11/20		

4. 単元の個人目標（各教科・領域等）

生徒	個人目標
E	①電話対応で、自分の状況が相手にわかるように適切に話すことができる。 (小3段階)
F	①電話対応で、自分の状況が相手にわかるようにワークシートを活用して話すことができる。(小3段階)
G	①電話対応で、自分の状況が相手にわかるようにワークシートを活用して話すことができる。(小3段階)
H	①決まった相手との電話を想定し、決まった言い方を使うことができる。 (小3段階)
I	①自分の状況が相手にわかるように、順序を考えて伝えることができる。 (中1段階)

〔図－50 「電話で話そう」指導案（抜粋）〕

授業の展開では、生徒が見通しをもちやすいようにできるだけ同じ流れで行うようにした〔図－51〕。3の「言葉さがし」や5の「今日のお話」は年間を通して行っている学習で、単元の目標に迫る学習活動は4の「電話で話そうの練習をしよう」となる。4の活動は、①スーパーの場面②忘れ物の場面③お迎えの場面の場面ごとに3回の授業を設定しており、1時目－2時目－3時目とステップアップする活動内容となっている。

	学習活動	活動の詳細		学習活動
1	はじめのあいさつ			
2	今日の学習の確認	・本時の活動の流れを、ホワイトボードで確認をする。		「スーパーでお菓子を 買いたい時」 の場面を確認をする。
3	「言葉さがし」	・「今日の一文字■」を決め、■から始まる言葉を 時間内で思い付くだけ書く。		
4	「電話で話そう」 の練習をしよう。	・前時に記入したワークシートを読む練習をする。 実際にスマートフォンやお菓子の空箱を持って会 話の練習をする。		ワークシートを見ながら 個人で会話の練習をする。
5	「今日のお話」	・読み上げられた問題をワークシートを使って解 く。		
6	おわりのあいさつ			一人ずつ、 L1と会話の発表をする。

〔図－51 授業の展開〕

実際の授業について、ここでは10月23日と11月11日の2回の授業を取り上げて紹介したい。

10月23日（3－①次2時間目）「スーパーの場面、電話を使った練習」の授業は、全14時中7時目にあたり、本時の目標として、「電話で、スーパーで買いたい物を伝えることができる。」と設定した。授業の中心となる『電話で話そう』の練習をしようでは、初めに「スーパーでお菓子を買いたい時」の場面の確認を電子黒板やワークシートを見ながら行った。次に、実際に携帯電話などを手に持って対話する練習を行った。教師と1対1で個別に話す練習を重ねる時間（生徒Iはチャット機能で、対話するコメントを入力し、チャットで送信をする練習を行う時間）と、T1と対面の会話の形式で練習の成果を発表する時間を設けて実施した。電話機を持って練習するのは2回目だったが、どの生徒も意欲的に取り組む様子が見られ、チャット機能を使う生徒Iも、積極的に練習することができた。この段階では、電話での決まった言い方はまだ覚えておらず、ワークシートを見ながらでも間違える生徒もいた。

2つ目に紹介する11月11日の授業の前に3回授業を行ったが、その間「主体的・対話的で深い学び」の視点で授業改善を図った〔表－24〕。

〔表－24 授業改善の主な改善点とその目的〕

改善点	目的
①練習方法の変更として、ワークシートをそれぞれ読んで練習する時間から、教師の手本を聞いて復唱して繰り返す練習に変更した。	目で見て「読む」のではなく、「話す」行為として、「適切な声の大きさ」、「間の取り方」など「相手に伝わるような話し方」を具体的に知ることができる。定型の話し方について、耳で聞いて復唱することにより、話し言葉として覚えることができる。

<p>②チームティーチングとして、T1の教師が教室を離れ電話応答するのではなく、教室に残って生徒の指導を行い。T2の教師が電話対応するよう変更した。</p>	<p>T1の教師が教室にいて、前回の生徒の一人ひとりの様子を基に、発表の前に気をつけることを伝えたり、必要な指差し等を行ったりして個別の支援を行うことができる。発表の後によかった点などをクラス全員に伝え、認め合う雰囲気を作ることができる。</p>
<p>③生徒Iの発表方法について、チャット機能を使って応答している様子を他の生徒は近づいて発表を見守るようにした。</p>	<p>これまでの取り組みの中で、生徒Iが安心して活動していたことを前提に、他の生徒は、生徒Iの努力している姿を見て学び、生徒Iは、みんなに自分が取り組んでいる様子を見てもらうことで、自信を高めることができる。</p>

このような改善をした上で、11月11日の授業を行った。この授業は全14時間中の11時間目の授業にあたり、3-②次の、学校で筆箱を忘れたことについて電話する内容で、展開は10月23日と同じ流れである。授業の中心となる「電話で話そう」の練習では、前時の「電話を使った練習」から続く「発表」の活動となった。それぞれ実際にタブレット端末でその場にはいない相手と電話で通話したが、生徒は電話を手を持って話すことにも慣れ、教師の促しがなくても自分から通話を開始したり、順番になったら自分からタブレット端末を受け取ったりする様子が見られた。練習の仕方を、個人練習から全体練習に変え、ワークシートを正確に読むことが難しい生徒も、周りの生徒と一緒に教師の手本に続いて話す練習を積んだことで、決まった言い方を覚え一人で発表することができるようになった。

単元の個人目標の評価は以下のとおりである【表-25】。

「知識及び技能」については、ワークシートを用いて、決まった言い方で話すことができるようになったことから、すべての生徒が目標を達成できたと評価した。「思考・判断・表現」については、「相手に伝わるような話し方」を意識してゆっくり大きな声で話そうとしたり、ワークシートをしっかりと見て会話の流れを確認しながら話したり、適切な漢字を選んで文字を打ったりするなど【図-52】、達成できたと捉えた。

「主体的に学習に取り組む態度」は、どの生徒も自分から教材を取りに行ったり【図-53】、手を上げて発表したいことを伝えたり、友達の発表の様子に注目して褒めたりするなど、積極的に学びに取り組む姿が見られたので達成したと評価した。